

授業科目 生理学Ⅰ

【担当教員名】 宮岡洋三	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・栄養・社会
	開講時期	前期	必修・選択	必修・必修・必修・選択・選択
	単位数	1	時間数	15

【概要及び学習目標】

本科目では、「生体の機能（働き）」についての基本的な知識を学びます。生理学は解剖学と並んで、生体を理解する基礎となります。解剖学が「生体の構造」に主眼を置くのに対して、生理学は「機能（働き）」の理解を目的とします。しかし、この両者は互いに密接に関連しているので、生体の理解にとって車の両輪と言えます。生理学の対象範囲は非常に広く、まさに「頭の天辺からつま先まで」対象にならないものはありません。生理学は実に楽しく、かつ感動的な科目です。

ほとんどの方には、「生理学」を学ぶのは初めてと思われるかもしれませんが、実は中学校や高校の「生物」ですでに学んだ点も多いのです。例えば、「細胞」、「条件反射」あるいは「神経系とホルモン」などは、生理学でも扱う重要な分野です。ここでは、高校で「生物」の不得意だった方や学習する機会の無かった方も念頭に入れて、「生物」の中でも「生理学」を理解する上に重要と考えられる分野を中心に学びます。「生物」の得意だった方には知識の再点検を、また不得意だった方や学習機会の無かった方には基本的な知識の獲得を目指します。

回数	学習の主題	学習内容	学習方法
1	生命現象	「生きていること」とは、どういう状態かを考える	
2	ウィルスからヒトまで	「生物」には、どのような仲間がいるかを学習する	
3	細胞の種類と働き	「細胞」には、どのような種類があり、どういう働きをするか	
4	感覚と運動	「生理学」の二本柱である「感覚」と「運動」について	
5	神経系の働き	「神経系」の発生、進化を基礎に、その働きを考える	
6	内分泌系の働き	「神経系」と並ぶ、生体の調節機構の双壁である「内分泌系」	
7	反射とその制御 まとめ	「単シナプス反射」から「条件反射」までを考える 以上を総括し、生理学の概要を総復習する	

【評価方法】

期末試験

【履修上の留意点】

多くの事項を覚えようとはせずに、むしろ生体についての基礎的観点を理解してほしい。

【使用図書】

教科書・参考書別	書名	著者名	発行所	発行年・価格・その他